

春來にけらし

(昭和十七年寮歌)

橋爪秀雄君 作歌
李子一男君 作曲

一

春來にけらし白雪の
厚き衣や重からん
綾羅の糸も綻るびて
朧々深き五月闇
榆影揺めく鼙鼓の音に
夜霧に蒸せる緑酒汲み
挙りて踊る榆の精

二

草茅しげき原始林かげに
聖き焰を囲みつつ
若き情熱は求むれど
人生誰かよく解かん
ただ真なる愛に泣く
寮友の姿の清ければ
春宵の罪と誰か言ふ

三

春秋糸も限りなく
文月の夢は織女星の
あはれ手榴の衣かな
山の端深くたそがれて
今宵銀河の祭日の
永劫の空を眺むれば
天空流る星一つ

四

雨月の濁流滔々と
豊川に聞く世の憂
泥濘沈み真清水の
流るる秋は見ざるとも
墳墓の土を清くせん
戦の庭を高らかに
七つの海の潮音よ